

令和7年度横浜市交通安全対策会議 会議録	
日 時	令和7年6月26日（木）午後2時～午後3時30分
開催場所	市庁舎18階共用会議室みなと6・7
出席者	嶋原謙二委員、守屋弘毅委員、木村大介委員、権藤由紀子委員、栗本高史委員、佐々木功喜委員、五反田佐千子委員、高杉陽子委員、鈴木美緒委員、（石川教育次長：下田委員代理）、（瀬戸専任主幹：元橋委員代理）
欠席者	山中竹春会長、元橋洋介委員、下田康晴委員
開催形態	公開（傍聴者0人、オンライン傍聴回数延べ2回）
議題	<p>1 オンラインでの傍聴（案）について</p> <p>2 令和7年度 横浜市交通安全実施計画（案）について</p> <p>3 その他</p> <p>（1）横浜市の交通安全に関する主な取組について</p> <p>（2）横浜市における自転車事故対策の取組</p> <p>（3）各委員からの情報提供</p>
議事	<p>1 オンラインでの傍聴（案）について (事務局) オンラインでの傍聴の趣旨と配信方法、周知方法について説明。</p> <p>（栗本議長） ・議題1オンラインでの傍聴（案）について、意見・質問はあるか。 (異議なし)</p> <p>（オンライン傍聴を開始）</p> <p>2 令和7年度横浜市交通安全実施計画（案）及び 3 その他(1) 横浜市の交通安全に関する主な取組について (事務局) 令和7年度横浜市交通安全実施計画（案）及び横浜市の交通安全に関する主な取組について説明。</p> <p>（栗本議長） ・議題2令和7年度横浜市交通安全実施計画（案）及び議題3(1)横浜市の交通安全に関する主な取組について、意見・質問はあるか。</p> <p>（石川教育次長：下田委員代理） ・学校・教育委員会と道路局が連携し、子どもの通学路交通安全対策事業を数年取り組んでいるが、非常に効果があり、連携が大事であると感じている。</p>

- ・子ども・安全安心マップを作成いただき、通学路の見直しや再確認、学援隊をはじめとする地域の方や教職員の見守りに活用している。子どもたちの学習でも、子ども・安全安心マップを自然に使用して行われるようになっている。
- ・交通安全推進校は令和6年度5校で実施しており、道路局が行うハード面の整備と合わせて交通安全の学習を実施している。例えば社会科の学習の中で、地域の中で行われる見守り活動やゾーン30について具体的に学ぶような事例がある。また、交通安全の意識向上のためにオリジナルソングを作って帰りの会で歌ってから帰るという学校もある。下校の時間は子どもたちの注意が散漫になるので、下校前に注意を促すことは効果的と感じている。
- ・交通安全推進校の取組について学校からは、「児童が交通安全に触れることで日ごろから意識するようになった」、子どもたちからは「地域の方の活動が分かった」という意見を聞いている。
- ・令和7年度は推進校を9校に増やしている。学校安全研修等で事例を共有し、各学校の実践につなげていきたいと考えている。

(権藤委員)

- ・子どもの通学路交通安全対策はソフトとハードの両面から取り組んでおり、非常に価値があると感じている。
- ・旭区は都市計画道路の整備率が低く道路状況が悪い中、地域の皆様が見守り活動を活発に取り組んでいただいている。
- ・はまっ子交通安全教室やスクールゾーン対策協議会についても、地域の皆様の尽力をいただきながら実施している。区としてもできる限り協力しているが、交通安全推進校を含めたハードとソフトの両面からの対策を実施していることは大事だと思う。
- ・今年に入り旭区内では子どもが関わる交通事故が14件発生している。信号のない交差点では自転車の事故が4件発生しており危機感を持っている。「あさひ安全・安心かわら版」を発行するなど区としても警察と連携した取組を行っている。
- ・推進校以外にも市内各所で交通安全対策が行われている。関心を持っている地域の方もいらっしゃるので、こういった取組があるという情報をお知らせできると一層連携を深めていけるのではないか。

(高杉委員)

- ・保護者の立場としてお話をさせていただく。登下校時には保護者が通学路の見守りや旗振り活動などを行っている。道路局が行うはたふり講習会では保護者が参加しやすい工夫をしながら開催いただき感謝している。子どもたちのために地域の方や行政の方が取り組んでいただいていることに保護者を代表して感謝申し上げる。
- ・子ども・安全安心マップについて、事故情報と不審者情報が一緒に見られるなど

利用しやすい形になっている点がよいと感じる。

・横浜市 PTA 連絡協議会としても各小学校 PTA のつながりがあるので協力していきたいと思う。

(瀬戸専任主幹：元橋委員代理)

・神奈川県からの情報提供として、スタートかながわの取組をご紹介する。県としては、小学校、中学校、高等学校で平成 22 年から現在まで、交通安全の推進に取り組んでいる。毎年数校をモデル校に選定し、年間の取組を全学校に周知し活用いただいている。

(五反田委員)

・交通安全母の会として、小学生のはまっ子交通あんぜん教室で教えている。子どもたちはしっかりと学んでいるが、お母さんたちは交通ルールを守っていないように感じている。

・こども・安全安心マップについては母の会のメンバーでも知らない人がいると思うので伝えて、活用していきたい。

・母の会として保護者がヘルメットを着用していないことが課題であると感じている。子どもたちに自転車の乗り方を伝えるうえで、豆腐を使ってヘルメットの安全性を伝える実験を見せて、子どもだけでなく保護者にもヘルメットを被つてもらうように取り組んでいる。

(栗本議長)

・その他、意見はないか。

(異議なし)

3 その他(2) 横浜市における自転車事故対策の取組

(事務局)

横浜市における自転車事故対策の取組について説明。

(栗本議長)

・議題 3 (2) 横浜市における自転車事故対策の取組について、意見・質問はあるか。

(守屋委員)

・県として反則切符による取り締まりが高校生から対象になるということで、県内すべての高校 1 年生約 7 万人に自転車ルールブックを配付する。また、ルールブックの内容についても青切符の内容を踏ました内容に改定予定。

・ヘルメット着用促進の取組として昨年度、ヘルメットデザインコンテストの最優秀賞作品のポスターをデジタルサイネージや各高校で周知している。

・道路交通法の改正に伴い、神奈川県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例の改正を進めている。自転車用ヘルメットの着用促進をしたいと考えており、スケジュールとしては、令和7年9月の第3回県議会の通例改正の議案を提出し、令和8年4月に改正条例施行を予定している。

(石川教育次長：下田委員代理)

・経験として中学生から高校生の事故が多いことは感じていたが、資料の中で16歳の自転車事故が最も多いというデータがあり、対策に取り組まなければならないと感じている。今後、市立中学生や高校生への周知について検討する。

・市立高校は9校あるが、そのうち5校で自転車通学を認めており、自転車の安全指導とヘルメット着用を伝えている。

・今後、通学時の対策だけでなく、中学生の後半での指導や学校安全研修での周知、各学校での安全指導についても検討していきたい。

(鈴木委員)

・ヘルメットの着用に関しては、自転車利用者自身が、なぜヘルメットを被らなければいけないのかを分かってないということがある。ヘルメット着用率について調査したことがあるが、子どもが被っていないケースや子どもにだけヘルメットを被せて親は被らないケースが多かった。

・小学校高学年や中学生以上の方にヘルメットを被せるとなると、被っていることが当たり前のような状態にしていかないといけない。今回の横浜DeNAベイスターズとのタイアップのような、影響力のある方が勧めることは効果的と言われている。

・事故の原因をなくしていくことや、ヘルメットを被らないとどうなるかということを、お子さんや若い方などは知らないと思う。ヘルメットを着用することと、着用しない場合のデメリットをセットで伝えるとよいと思う。

・資料で小学生が運転する自転車の死亡事故が3件あるが、小学生は自転車で歩道を通行できるがスピードを出している子も多いと感じるので、歩道でスピードを出して走ってはいけないことや車は急に止まれないことを教えられると、事故減少につながる。

・SHARE THE ROAD運動の周知でバスにステッカーを貼っている取組は良いと思うが、たくさんの人を見てもらったほうがよいのでイベントで配るなど、多くの人に知つてもらうように、幅広くSHARE THE ROAD運動のデザインを活用できるとよいと思う。

(木村委員)

・個別の事故事案はお話できないが、自転車がスピードを出しているため事故につながることはある。

・交通に関心をもったのは自分自身が小学校1年生で車にはねられた経験があったから。トラウマなどの問題はあるが、子どもたちには事故にあう前に、疑似体験などを通じて気を付けないと感じてほしい。

・横浜市内の子どもの事故は全体の7%で県下も減少傾向にあるが、なくなった訳ではなく死亡事故も発生しているのでゼロに向けて取り組んでいく必要がある。

(瀬戸専任主幹：元橋委員代理)

・神奈川県ではスケアード・ストレイト教室を、県内の中学校高校で毎年数校ずつ開催している。今年度も9校で開催している。

・ヘルメット啓発では部活動のチームと所轄警察が連携して、ヘルメット着用促進リーダーとして取り組んでいる事例がある。また、厚木市では自転車ヘルメットインフルエンサー事業として、応募のあった県立高校や市内中学校の生徒ヘルメットを贈呈して、その子どもたちがヘルメットを被って市内を走ることで同じ学校の子どもや市民に対してヘルメットを被ろうという広報を実施している。

(栗本議長)

資料にあるが、着用率の高い愛媛県では校則で通学時のヘルメット着用が義務付けられていることがある。県内で自転車通学時のヘルメット着用を校則で定めている学校はあるのか。

(瀬戸専任主幹：元橋委員代理)

・1校が校則で定めているが、そのほか校則で定めている学校を県では把握していない。

・他県での校則化の話は聞いているが、校則化は学校判断のためブラック校則といった指摘もありハードルが高い状況。

・自転車通学の子にヘルメットを被るようにということは、各研修で先生に対して周知している。

(栗本議長)

・その他、意見はないか。

(異議なし)

3 その他(3) 各委員からの情報提供

(嶋原委員)

・道路安全診断の取組について情報提供

(木村委員)

・横浜市内の交通事故情勢等について情報提供

	<ul style="list-style-type: none"> ・神奈川県警察公式アプリ「かながわポリス」について情報提供 <p>(鈴木委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明の中で飲酒運転の事故が増えているとのことだが、集計の中に訪日外国人の事故は含んでいるのか。 <p>(木村委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神奈川県では日本人のみで、外国人が多いということはない。 <p>(守屋委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報提供だが、国第12次交通安全基本計画に基づき、第12次神奈川県交通安全計画を策定予定。 <p>(栗本議長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほかに御発言ないようなので、本日の議事はここまでとする。
資 料 ・ 特 記 事 項	<p>1 資料</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 次第、委員名簿、横浜市交通安全対策会議条例 (2) 【資料1】オンラインでの傍聴（案）について (3) 【資料2】令和7年度横浜市交通安全実施計画（案） (4) 【資料3】横浜市の交通安全に関する主な取組 (5) 【資料4】横浜市における自転車事故対策の取組 (6) 【資料5】情報提供資料（関東地方整備局横浜国道事務所） (7) 【資料6】情報提供資料（神奈川県警察） (8) 【参考：席上配付】記者発表資料「横浜DeNAベイスターズ選手が呼びかける自転車乗車時のヘルメット着用啓発運動を実施します」 <p>2 特記事項</p> <p>特になし</p>